

各関係機関長 殿  
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病虫害防除所長  
(公印省略)

平成28年度農作物病虫害発生予察情報について

平成28年度農作物病虫害発生予報第14号を発表したので送付します。

平成28年度農作物病虫害発生予報第14号

平成29年2月28日  
徳島県

I. 果樹  
果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生時期 平年よりやや早い

発生量 平年よりやや多く(前年より多い), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) 本年度(2016年度)の勝浦町における予察灯誘殺数は、チャバネアオカメムシでは8月第4半旬までは平年に比べ少なく推移したが、9月第2半旬及び10月第1半旬に急増し(図1), 極早生温州ミカンやカキ等で被害も認められた。また、ツヤアオカメムシでは、8月第5半旬までは平年に比べ少なく推移したが、8月第6半旬以降増加し、10月第1半旬に急増した(図3)。上板町における予察灯誘殺数は、チャバネアオカメムシ及びツヤアオカメムシともに8月第4半旬までは平年に比べ少なく推移し、9月第1半旬頃にやや誘殺数が増加したが、調査期間を通じてほぼ平年並～やや少ない誘殺数で推移した(図2, 4)。

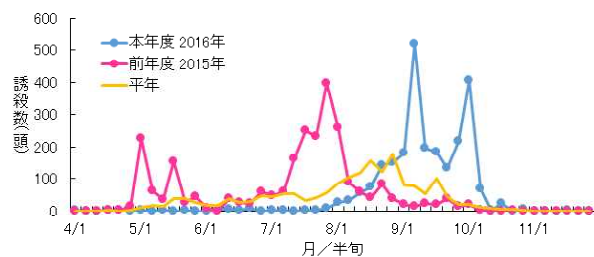


図1 予察灯によるチャバネアオカメムシの誘殺数推移(勝浦町)

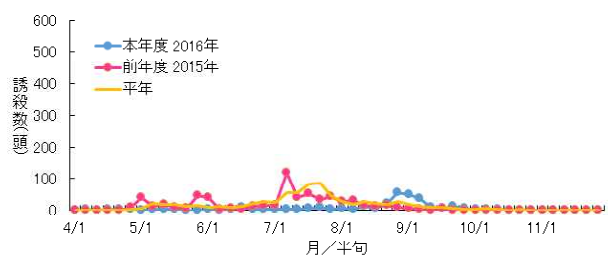


図2 予察灯によるチャバネアオカメムシの誘殺数推移(上板町)

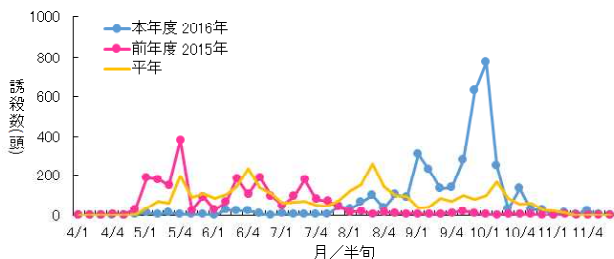


図3 予察灯によるツヤアオカメムシの誘殺数推移(勝浦町)

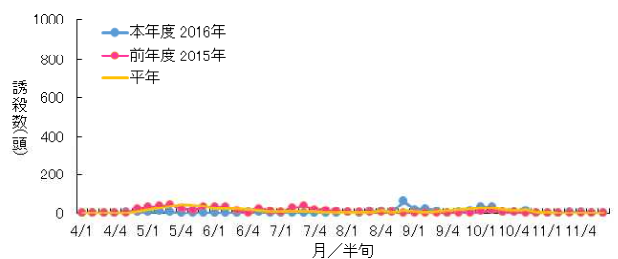


図4 予察灯によるツヤアオカメムシの誘殺数推移(上板町)

(2) 2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11地点×2か所調査)では、7地点で越冬を確認、

越冬成虫は 2.5頭/m<sup>2</sup>であり、平年(越冬成虫数は 1.4頭/m<sup>2</sup>)に比べやや多く、前年(調査地点数は 11地点×2か所、成虫確認地点数は6地点、越冬成虫数は 0.4頭/m<sup>2</sup>)に比べ高い越冬密度であった。また、ツヤアオカメムシもチャバネアオカメムシ同様に秋口の誘殺頭数が多かったため、越冬成虫数も多いと推察される。

- (3) 2月23日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

## II. 野菜

### 冬春トマト

#### 疫病

##### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 2月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が 8.0%, 発病度が 0.5)。  
(2) 2月23日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。  
(2) 窒素質肥料を過用すると茎葉が軟弱となり発生しやすくなるので、肥培管理に注意する。  
(3) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。  
(4) 病原菌は気孔から侵入するので、薬剤散布は気孔の多い葉の裏側を重点的に行う。特に、下葉には丁寧に散布する。  
(5) 病原菌が侵入してからごく短期間で発病するので、発生を認めたら散布間隔を短縮して、集中的に薬剤散布を行う。

#### 灰色かび病

##### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 2月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が12.5%, 発病葉率が 0.8%, 発病果率が 0.0%)。  
(2) 2月23日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。  
(2) 発病果や花卉などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、ハウス外で処分する。  
(3) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### 葉かび病

##### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 2月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が12.5%, 発病度が 2.1)。  
(2) 2月23日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20～25℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。

- (2) 肥料切れは病勢の進展を助長するので、肥培管理に注意する。
- (3) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (4) 病原菌は気孔から侵入するので、薬剤散布は気孔の多い葉の裏側を重点的に行う。
- (5) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### コナジラミ類

##### 1) 予報内容

発生量   平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 2月後半の巡回調査では、発生圃場率が22.2%、寄生葉率が1.8%で、平年(48.6%、4.7%)に比べやや低い。なお、優占種はタバココナジラミである。
- (2) 2月23日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。また幼虫は葉裏に多く寄生しているため、薬剤が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### 冬春ナス

##### 灰色かび病

##### 1) 予報内容

発生量   平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 2月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が1.7%、発病果率が0.03%)。
- (2) 2月23日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすい。特に湿度の影響が大きいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2) 朝夕の急激な冷え込みは発生を著しく助長するので、適切な温度管理に努める。
- (3) 発病果や花弁などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、ハウス外で処分する。
- (4) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (5) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

##### うどんこ病

##### 1) 予報内容

発生量   平年並(前年並)で、発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 2月後半の巡回調査では、発生圃場率が14.3%、発病葉率が0.3%で、平年(13.3%、0.5%)並の発生である。
- (2) 2月23日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 罹病葉は早期に圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (3) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

##### すすかび病

##### 1) 予報内容

発生量   平年並～やや多く(前年並)、発生程度は「少～中」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 2月後半の巡回調査では、発生圃場率が85.7%、発病葉率が14.7%で、平年(58.8%、8.0%)に比べやや高い。
  - (2) 2月23日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
- (1) 気温が25℃くらいで多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
  - (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤が下葉の葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
  - (3) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### アブラムシ類

- 1) 予報内容  
発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」
  - 2) 予報の根拠
    - (1) 2月後半の巡回調査では、発生圃場率が14.3%で、平年(1.7%)に比べやや高いが、寄生葉率は0.3%で、平年(0.1%)並の発生である。
    - (2) 2月23日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
  - (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### アザミウマ類

- 1) 予報内容  
発生量 平年並～やや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」
  - 2) 予報の根拠
    - (1) 2月後半の巡回調査では、発生圃場率が14.3%、寄生葉率が2.9%、被害果率が0.3%で、平年(40.2%、6.1%、1.6%)に比べやや低い。
    - (2) 2月23日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
  - (2) 花器、新葉、葉裏、葉の重なった部分などに集まる習性があるので、それらの部分に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
  - (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### コナジラミ類

- 1) 予報内容  
発生量 平年並～やや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」
  - 2) 予報の根拠
    - (1) 2月後半の巡回調査では、発生圃場率が14.3%で、平年(19.5%)並の発生であるが、寄生葉率は0.1%で、平年(1.0%)に比べ低い。
    - (2) 2月23日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。また幼虫は葉裏に多く寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
  - (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### ハダニ類

- 1) 予報内容  
発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

## 2) 予報の根拠

- (1) 2月後半の巡回調査では、発生圃場率が14.3%、寄生葉率が0.1%で、平年(1.7%, 0.03%)に比べやや高い。
- (2) 2月23日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

## 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## 冬春キュウリ

### うどんこ病

#### 1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少～中」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 2月後半の巡回調査では、発生圃場率が77.8%、発病葉率が10.1%で、平年(74.1%, 10.2%)並の発生である。
- (2) 2月23日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 罹病葉は圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (3) 同一系統薬剤の連用は耐性菌出現の恐れがあるので避ける。

### 灰色かび病

#### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 2月後半の巡回調査では、発生圃場率が22.2%で、平年(9.3%)に比べ高いが、発病果率は0.4%で、平年(0.4%)並の発生である。
- (2) 2月23日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすい。特に湿度の影響が大きいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2) 朝夕の急激な冷え込みは発生を著しく助長するので、適切な温度管理に努める。
- (3) 発病果や花弁などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、ハウス外で処分する。
- (4) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (5) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

### べと病

#### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少～中」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 2月後半の巡回調査では、発生圃場率が44.4%、発病葉率が13.8%で、平年(56.5%, 12.3%)並の発生である。
- (2) 2月23日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2) 肥料切れや着果過多などで樹勢が衰えた場合に激発するので、肥培管理に注意する。

- (3)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤散布は、葉の裏側を重点的に行う。
- (4)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### 褐斑病

##### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない), 発生程度は「中」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 2月後半の巡回調査では、発生圃場率が44.4%, 発病葉率が6.3%で、平年(78.7%, 13.7%)に比べやや低い。
- (2) 2月23日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤散布は、葉の裏側を重点的に行う。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### アブラムシ類

##### 1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年並), 発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 2月後半の巡回調査では、発生圃場率が11.1%で、平年(5.6%)に比べやや高いが、寄生葉率は0.1%で、平年(0.1%)並の発生である。
- (2) 2月23日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液は葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

#### アザミウマ類

##### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少～中」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 2月後半の巡回調査では、発生圃場率が22.2%, 寄生葉率が2.7%で、平年(36.1%, 4.2%)並の発生である。なお、果実の被害は認められていない。
- (2) 2月23日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### コナジラミ類

##### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並), 発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 2月後半の巡回調査では、発生圃場率が11.1%で、平年(1.9%)に比べ高く、寄生葉率が0.7%で、平年(0.04%)に比べやや高い。
- (2) 2月23日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。コナジラミ類は葉裏に寄生するので、薬液は葉裏にも十分に付着するよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## 冬春ハウレンソウ

### べと病

#### 1) 予報の内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない), 発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 2月後半の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が18.1%, 発病度が3.7)。
- (2) 2月23日発表の1か月予報では, 平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く, 降水量は平年並か少なく, 日照時間は多いと予想されており, やや発生抑制的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 県内では, べと病菌レース13による発病が確認されているので, レース13以上に抵抗性を持つ品種を利用する。作型等の関係で作付けできない場合には, 薬剤による防除を徹底する。
- (2) 平均気温が8~18℃で曇雨天が続くと, 多発しやすい。発生が多くなると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤は予防的に, また下葉や葉裏にも十分かかるよう丁寧に散布する。
- (3) 葉が繁茂して軟弱となると被害が多いので, 肥培管理に注意する。
- (4) 病原菌は被害株についたまま越冬し, 春になると分生胞子を形成して伝染する。春先の発生を抑制するために, 薬剤を予防的に散布して発生を防止する。
- (5) 罹病株を圃場に放置すると, 次作の第一次伝染源となるので, 発病株は速やかに処分する。また, 春先に萎縮して奇形となった株はべと病に感染しているため, 速やかに処分する。

## アブラムシ類

#### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で, 発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 2月後半の巡回調査では, 発生圃場率が58.3%で, 平年(38.2%)並の発生であるが, 発生程度指数は0.0で, 平年(0.7)に比べやや低い。
- (2) 2月23日発表の1か月予報では, 平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く, 降水量は平年並か少なく, 日照時間は多いと予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているため, 薬剤が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるため, 同一系統の薬剤の連用は避ける。

## 冬春イチゴ

### 灰色かび病

#### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない), 発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 2月後半の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が11.7%, 発病果率が0.6%)。
- (2) 2月23日発表の1か月予報では, 平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く, 降水量は平年並か少なく, 日照時間は多いと予想されており, やや発生抑制的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので, 施設内が過湿にならないように換気を図る。
- (2) 発病果は伝染源になるので, 速やかに圃場から持ち出し処分する。
- (3) 薬剤感受性の低下を回避するため, 同一系統の薬剤の連用は避ける。

### うどんこ病

#### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 2月後半の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が3.6%, 発病葉率が0.1%, 発病果率が0.4%)。
- (2) 2月23日発表の1か月予報では, 平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並か高

く、降水量は平年並か少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 古葉を早めに除去し、葉裏に薬液が十分かかるように丁寧に散布する。
- (3) 罹病した果実や茎葉などは早期に見つけ、除去した後圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (4) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## アブラムシ類

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 2月後半の巡回調査では、発生圃場率が14.3%、寄生株率が0.6%で、平年(24.3%、3.1%)に比べやや低い。
- (2) 2月23日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## ハダニ類

### 1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中」

### 2) 予報の根拠

- (1) 2月後半の巡回調査では、発生圃場率が92.9%で、平年(60.6%)に比べやや高く、寄生葉率が17.3%で、平年(8.8%)に比べ高い。
- (2) 2月23日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## III. その他

1. 施設栽培において暖房機の最低気温の設定値を下げ過ぎると、低温性病害の発生を著しく助長する恐れがあるので、注意する。
2. 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないよう注意する。

## 発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病虫害防除所  
URL : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病虫害の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。